

やがて徐福は釜で何か湯がいている白髪で童顔の仙人に出会います。この仙人に不老不死の薬を探し求めて歩き回っていることを伝え、薬草はどこにあるかと尋ねました。すると、「釜の中を見ろ」と言うのです。これこそが薬草で、「私は1000年も前から飲んでいるから丈夫だ。薬草は谷間の大木の根に生えている」と言うと、釜を残して徐福の目の前から湯気とともに一瞬に消えてしまいました。こうして徐福はついに仙薬を手に入れました。

仙人が釜で湯がいていたのはフロフキという薬草でした。フロフキはカンアオイという植物で、金立山の山奥に今でも自生しています。煎じて飲めば腹痛や頭痛に効果があるとされています。



フロフキ（カンアオイ）

金立山には金立神社があります。祭神は保食神（うけもちのかみ）、岡象売女命（みずはめのみこと）と徐福の三神です。以前は徐福だけを祭神としていたといえます。雨乞いには、金立神社の御輿を有明海まで担ぎ出すとよいと言われ、地元では徐福が雨を降らせる神として信仰されています。（徐福と雨乞いの話は富士吉田市にも伝わっています）

金立神社上社の拜殿裏には「湧出御宝石（わきでのおたからいし）」が立ち、この巨石の頂部には水がたまっているといえます。神仙思想に基づけば、この巨石は陽石であり、上宮から下ったところには陰石と思われる巨石が確かにあります。その石の割れ目からは水が出ているようです。



左 金立神社上社 右 金立神社奥の院